

目 次

口 絵

発刊にあたって 宮窪町長 菅原恒夫
発刊を祝して 宮窪町議会議長 高瀬賢一
町誌刊行にあたって 宮窪町誌編集委員長 矢野勝明

第一編 宮窪の歴史と文化

第一章 自然	
第一節 地勢・地質	三
一 地理	三
二 地形	四
三 地質	五
第二節 大島石	六
四 土壌	二
五 潮汐	七
第三節 気候	八
第四節 生物	三
一 動物	四

第二章 植物

第一節 原始—宮窪のあけぼの

一 ナウマン象のいた頃

二 狩猟・漁撈時代

三 稲作の開始と小國家の成立

四 統一国家への道

第二節 古代・中世—水軍の世界

一 古代・中世の越智大島

二 海賊衆能島村上氏の登場

三 村上武吉の活躍

四 能島水軍の終焉

第三節 中世の城跡

一 能島

二 見近島

三 コウガ屋敷とその周辺

四 町外の遺跡

第四節 水軍の船 安宅船

一 今治藩成立以前

二 松平定房の入封

三 行政制度

四 村の指導者たち

五 土地制度	三〇三
六 租税制度	三〇四
七 水主役と狼煙場	三〇五
八 山林と農民生活	三〇六
九 伊能忠敬の大島測量	三〇七
十 戸代・鶴島	三〇八

第六節 宝曆カレイ山騒動	三一〇
一 騒動の発端	三一〇
二 村人今治城下へ	三一〇
三 仕置き仰せ付け	三一〇
四 助命運動	三一〇
五 藩有林と慣行	三一〇
六 若宮さま	三一〇

第七節 近代・現代——宮窪自治の歩み	三一〇
一 自治制度の発展	三一〇
二 宮窪財政の推移	三一〇

第三章 民俗	三一〇
第一節 浜の暮らし	三一〇
一 近世の漁業慣行	三一〇
二 近代の漁業慣行	三一〇
三 漁民の暮らし	三一〇
四 浜の漁法	三一〇
五 浜の信仰	三一〇

第二節 村の暮らし	三一〇
一 村の生活	三一〇
二 年中行事	三一〇
三 神仏と暮らし	三一〇
四 はじめに	三一〇
一 神道	三一〇
二 仏教	三一〇
三 その他の宗教	三一〇

第三章 文化

第一節 文化財	三一〇
一 文化財保護	三一〇
二 指定文化財	三一〇
三 その他の文化財	三一〇

第二節 宮窪の石造文化	三一〇
-------------	-----

第三節 口承文芸	三一〇
一 民謡	三一〇
二 童謡	三一〇
三 伝説	三一〇

第四節 文化	三一〇
一 民話	三一〇
二 伝承地名	三一〇
三 方言	三一〇

第二編 宮窪の暮らしと政治

第一章 町政

第一節 宮窪町の行財政	四四五
-------------	-----

一 宮窪町の概要	四四五
二 宮窪町の町政	四四六
三 宮窪町の財政	四四七

第二節 社会福祉	四四八
----------	-----

一 社会福祉制度	四四八
二 児童福祉	四四九
三 老人福祉	四五〇
四 母子福祉	四五一
五 身体障害者(児)福祉	四五二
六 戦争犠牲者援護	四五三
七 住宅福祉	四五四
八 生活保護	四五五
九 民生委員制度	四五六
十 社会福祉協議会	四五七
十一 募金活動	四五八
十二 社会福祉関係団体	四五九

第三節 保険・年金	四五九
一 国民健康保険制度(国保)	四五九

第二節 保健衛生	四六一
一 老人保険制度	四六一
二 国民年金制度	四六一

第三節 保健衛生	四六一
一 健康管理	四六一
二 治革	四六一
三 母子保健	四六一
四 成人病対策	四六一
五 健康づくり推進	四六一
六 民間衛生活動	四六一
七 地域医療	四六一
八 上下水道	四六一
九 廃棄物処理	四六一
十 大猫対策	四六一
十一 墓地	四六一

第五節 道路・橋梁・港湾

一 道路	四六二
二 橋梁	四六二
三 港湾・漁港	四六二

第六節 交通・通信

一 海上交通	四六三
二 陸上交通	四六三
三 郵便・電信・電話	四六三

第七節 災害・警察・消防

一 災害 呉九

二 警察 呉九

三 消防 呉九

第八節 宮窪町名譽町民

一 社会教育の沿革 呉九

二 公民館 告七

三 各種団体 告七

第二章 教育

第一節 教育の歩み

一 明治以前の教育 告三

二 明治時代の教育 告三

三 大正時代の教育 告三

四 昭和時代の教育 告一

五 幼稚園教育 告一

六 教育委員会 告一

七 学校給食 告一

第二節 学校・幼稚園

一 余所国小学校 告三

二 友浦小学校 告三

三 宮窪小学校 告三

四 四阪島小学校 告三

五 四阪島中学校 告三

六 宮窪中学校 告三

七 宮窪町立宮窪幼稚園 告一

一 決算書 告三
二 三役・議長・議員・委員名簿 告七
三 戰没者名簿 106
四 明治十三年宮窪町地誌取調書 107
五 村上文書(宮窪町保管) 108
六 村上文書(山口県文書館架蔵) 109
七年 表 110

人物小伝	一 決算書 告三 二 三役・議長・議員・委員名簿 告七 三 戰没者名簿 106 四 明治十三年宮窪町地誌取調書 107 五 村上文書(宮窪町保管) 108 六 村上文書(山口県文書館架蔵) 109 七年 表 110
------	---

第三編 資料編

第三節 鉱業・電力

一 四阪島精錬所 告三

二 大島石 告三

三 電力 告三

第四節 商工・金融・観光

一 商業 告三

二 製造業 告三

三 宮窪杜氏 告三

四 金融 告三

五 商工会 告三

六 観光 告三

編集事務局日誌
編集を終えて
宮窪町誌編集関係者
協力機関・協力者名
宮窪町誌執筆者

第七節 災害・警察・消防

一 社会教育の沿革 告九

二 公民館 告七

三 各種団体 告七

第二章 教育

第一節 教育の歩み

一 明治以前の教育 告三

二 明治・大正期の漁業 告六

三 宮窪近代漁業誌 告九

四 宮窪漁港 告五

五 潜水漁業 告五

六 養殖漁業 告三

七 水産物漁獲高・生産高 告五

八 宮窪漁業協同組合 告五

九 宮窪水産業の先人たち 告五

第二節 農業

はじめに 告九

一 水稻 告九

二 麦 告九

三 甘藷 告九

四 葉たばこ 告九

五 除虫菊 告九

六 ゼラニウム 告九

七 黄蜀葵(トロロアオイ) 告九

第七節 災害・警察・消防

一 社会教育の沿革 告九

二 公民館 告七

三 各種団体 告七

第二章 教育

第一節 教育の歩み

一 明治以前の教育 告三

二 明治・大正期の漁業 告六

三 宮窪近代漁業誌 告九

四 宮窪漁港 告五

五 潜水漁業 告五

六 養殖漁業 告三

七 水産物漁獲高・生産高 告五

八 宮窪漁業協同組合 告五

九 宮窪水産業の先人たち 告五

第二節 農業

はじめに 告九

一 水稻 告九

二 麦 告九

三 甘藷 告九

四 葉たばこ 告九

五 除虫菊 告九

六 ゼラニウム 告九

七 黄蜀葵(トロロアオイ) 告九